

「中国の外国語学校で日本語教師として働く」

2017年度 一次隊

職種：日本語教育

渡部 宏美



もう、6年前のことになりますが、卒業前に、大学構内で行われたJICAの「青年海外協力隊説明会」に参加しました。その説明の中で、「教員になってから協力隊に参加するのがおすすめだよ」と先輩隊員が私に話してくれました。日本の学校での教育経験を活動に生かすことができること、帰ってきた後も自身の学校で子どもたちに体験したこと、世界の様子を教えることができるからです。その後、教員として6年間の経験を経た後、協力隊に参加することに決めました。書類選考の後、東京で行われた面接試験を受け、無事協力隊に合格することができました。

現在私は、苫小牧市の小学校に籍をおき、「出張」という形で協力隊に参加しています。教員経験が3年以上(地域によっては、5年以上)あれば、文科省の推薦をもらい、JICAの青年海外協力隊に「現職教員参加制度」で参加することができます。教員の仕事を辞めずに参加する

ことができ、給与も毎月もらうことができます。

活動の行先は希望を出せるものの、自分で選ぶことはできず、任地は協力隊の合格通知と一緒に送られてきます。私の任地は中国の西安でした。大学の交換留学制度で中国のハルビンに一年ほど留学していたことがあり、西安も一度旅行したことのある場所でした。9年ぶりにまた来ることができ、とても嬉しく思っています。

私は、たまたま中国語を勉強したことがありましたが、特に話せなくても協力隊に応募することができます。派遣の前に、2か月の派遣前訓練というものがあり、合宿のような形で言語をしっかりと勉強します。毎日6時間程度言語を練習するので、言語を0から始めた人もある程度話せるようになります。この派遣前訓練では、全国から集まった様々な国に派遣される方と出会うことができました。一緒にマラソンをしたり、野外訓練をしたりする中で色々な話をして交流できたことは、とても良い経験となりました。

よく中国の日本人学校で働いているという勘違いをされることがありますが、日本人学校への教師派遣と協力隊の派遣は全く別です。大きな違いとしては、教える対象と同僚が現地の方(私の場合は中国人)だということがあげられます。

私は、「西安大学附属西安外国語学校」という所で日本語教師として活動しています。小・中・高の一貫教育の学校なので、教える対象は、中国の小学生、中学生、高校生です。会話や文化の授業を中心に担当しています。

近年中国では、英語教育が重視されていますが、実は、英語の次に学習者が多い言語は、日本語です。そのため、中国各地で日本語教師として働く日本人は比較的多いです。この学校でも第一言語、第二言語として日本語が選択できるようになっています。学校には、中国人の日本語の先生がいて文法などを教えています。初級のクラス以外は、ほとんど日本語で授業が行われており、2年くらい学習した生徒は、日常会話程度の日本語は簡単に話すことができます。中国の語学教育はとても進んでいるという印象を受けました。



教員の仕事は、「視野がせまい」「民間では通用しない」と言われることが多いです。子どもの頃から学校で学び、働く場所も学校、同僚も先生なので、他の方から見るとそのように見えてしまうのも仕方ないことかもしれません。だからこそ、このような活動に参加し、物事を色々な角度から見つめ、自身の視野を広げるということがとても大切なことだと思います。



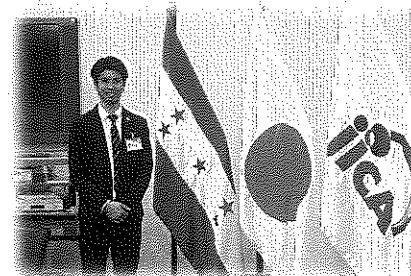
2017年度1次隊

氏名：伊藤 遼

職種：数学教育

<はじめに>

北海道教育大学旭川校の数学教育専攻を卒業し、現在 JICA の国際協力支援のプログラムである青年海外協力隊の試験を受け、現在中南米のホンジュラスというスペイン語が公用語となる国で教育支援を行っております。学生時代から、震災関係のボランティアに参加し、ラオス、アメリカ、ロシアなどの派遣プログラム、その他個人的に海外旅行が好きで数学教育専攻での学びが結びつくこの協力隊を知った時から、参加が自分の夢でした。



(ホンジュラス JICA 事務所)

<ホンジュラスはどんな国？>

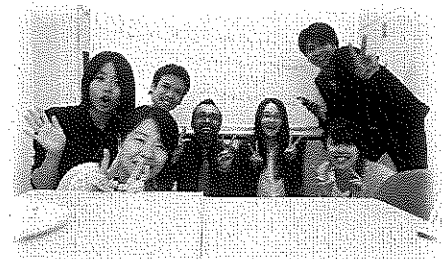
ホンジュラスは中南米の一国であり先ほど記載しました通り、スペイン語圏となります。残念ながらホンジュラスはかつて「世界一殺人率が高い国」という不名誉なワースト1を記録してしまい、治安の悪い国というレッテルのみがこの国イメージとして先走っていますが、ラテン文化特有の温かさを人々は持っており、笑顔が絶えない国で、人を嫌わないなどという素敵な精神など、今現在派遣されて半年がたちますが自分はこの国が大好きです。(ホンジュラスコーヒーは日本でとても有名なコーヒーとして売られています。)

<元々のスペイン語の知識は0！知っていたのはアディオスくらい(さよなら)くらい！>

私はこのプログラムに参加するまで何一つスペイン語を喋れませんでした。

しかし、派遣前に70日間行われる訓練でそれは素晴らしい先生のもとでみっちりスペイン語を勉強し、その他にも基礎体力であったり海外で生活していく上での講義などさまざまな事を教わった上で現在この国でスペイン語を用いて仕事できています。(写真は日本でのスペイン語授業)

訓練所では他にフランス語、シンハラ語、英語など世界各地へ派遣される隊員にそった言語を徹底的に学ぶ環境が整っています。



<現在のこの国での仕事内容>

今は主に一つの小中一貫校を基点に、様々な援助活動をしています。本当にびっくりするくらい数学力が低い…。そんな彼らの数学力が少しでも向上するようにと日本人隊員で様々な対策をしております。我々 JICA で作った共通テストを任地の学校で実施し、採点后、我々で結果を持ち合って首都の事務所で会議。その結果を教育省の方々に発表し(日本で言う文部科学省に当たる機関ですね)国と一緒にこの国の改善に取り組んでいます。他にも教員を対象に研修会を開き、教員の資質、能力向上への取り組み、算数オリンピックの実施などを行っています。

他にも日本文化紹介でソーラン節や漢字を教える、平和活動など、日々の生活の中でこの国に溶け込みながら自分のしている活動が直接彼らへの援助に貢献できているという有用感を持って日々を過ごしています。



◆◆◆国際協力専攻から国際協力の現場へ◆◆◆

氏 名：谷 明日香

職 種：青少年活動

派遣期間：2017年7月4日～2019年7月3日

派遣国：カンボジア（バタンバン州）

私は2017年3月に本学函館校の「国際文化・協力専攻」を卒業し、現在はカンボジアのバタンバン州に「青少年活動」という職種で派遣されています。青年海外協力隊というと、技術や資格、経験がなければ応募できないと思われるがちですが、青少年活動はそれ等が無くても応募できる職種です。実際に私も教員免許を取得しておらず、新卒での参加のため青少年活動経験や資格もありません。

カンボジアは青年海外協力隊が派遣されている国の中では治安、生活環境が比較的良く、停電や断水が時々あるものの、生活で苦勞することはほとんどありません。首都にはイオンモールがあり、日本のものを購入することもできます。一方で、物乞いをする子供や、内戦時に埋められた地雷の被害に遭い手や足がない人を未だによく見かけます。田舎では、川や雨水で水浴びや洗濯をしている人がいたり、未舗装の道があったりもします。首都や中心都市はとても発展しているので、格差を感じる事がしばしばあります。

私の主な活動内容は「運動会を通して生徒会活動を活性化すること」、「教科外活動を支援すること」です。現在は中学校2校で体育の授業のサポート、運動会に向けて生徒会のメンバーや先生と話し合いや道具の準備をしています。運動会は年に1回の単発的な行事なので、運動会の後は5教科以外の情操教育の支援、日本語教室、生徒会のメンバーを中心とした校内美化活動など



(休み時間に生徒と遊んでいる様子)

を行いたいと考えています。全ての活動はクメール語で行っていますが、赴任して5か月経った現在でも通じない、聞き取れないことが多く、活動の合間を縫って勉強を続けています。

残り約1年半の任期の間、少しでも多くのカンボジア人と関わり、日本のことを知ってもらえるように活動内外で頑張りたいと思います。生徒会活動の活性化や学校教育の発展だけでなく、活動を通して日本とカンボジアの友好関係に少しでも貢献できれば幸いです。



(バタンバン郊外にあるつり橋にて)